

2 フイリ。ビン

1052

昭和14年1月25日

在マニラ木原總領事代理より
有田外務大臣宛電報)

移民法改正および割当制創設を提倡したフイ

リピン大統領の教書につき報告

第三五號

二十四日議會ニ於ケル「ケソン」大統領教書要項左ノ通り

比島政府ノ目標トスル所ハ憲法ノ規定ニ從ヒ勤勉ナル市民ニ對シ生存ノ自由ヲ得セシムルト共ニ其ノ政治的權利ノ有効的實現ニ在リ之力爲ニハ法律ヲ守ルト共ニ偏見、不正觀念、舊習傳統ヲ去リ基督教ノ教義ヲ以テ其ノ政治社會的基礎觀念トセサルヘカラス今議會ハ全員ヲ我黨ヲ以テ構成セラレ國民ノ要望ヲ一黨ニ集ムト雖又一二議事ノ進行ヲ顧念セルカ爲ナリ故ニ徒ニ黨内黨ヲ作ルノ愚ヲ避ケ宜シク一致協力公正無私議題審議ニ當ラレンコトヲ切望スト冒頭シ過

去一箇年間ニ於ケル社會政策、公民教育、土木事業、公衆衛生、細民階級住宅問題、國防問題、政府關係營利事業歲入歳出關係、外國貿易狀況等ヲ說明シ更ニ政府提出議案ハ會期中隨時議會ニ回付スヘキモ差當り議會ノ考慮ヲ要望スル問題ハ一、米比委員會ノ推獎事項ノ採擇二、稅政改革三、「ミンダナオ」開發四、銀行制度改革五、比律賓大學移轉及制度改革六、公民教育制度變革七、衛生省創設八、農業調查九、農事試驗場及科學研究所ノ改革一〇、榮養試驗所創設

二、民商法ノ改正及非訟事務改善三、移民法改正及移民割當制創設等ナリト說キ現行移民法ハ米國議會制定法律ニシテ支那人、印度人及其ノ他ノ亞細亞人ニ對シ比島入國ヲ拒否シ居ル處比島ハ東洋國ノ一二シテ其ノ國民モ亦現ニ入國拒否ノ待遇ヲ受ケル國民ト同一民族タリ依テ爾餘ノ外國人ニ對シ入國ヲ許與スル以上是等亞細亞人ニ對シテモ同様ノ資格、條件ノ下ニ入國ヲ許與セントスルモノナルカ一國ヨリノ多數移民ノ入國ヲ防止スルカ爲各國同一ノ割當制ヲ創設

セントスルモノナリト説明シ又不幸ナル政治的難民ニ對シ

テハ可及的便宜ヲ與フルコトトセルモ無制限ニ入國セシム

ルコトハ公共負擔又ハ比島勞働者ヲ脅威スルカ如キ重大事

態ヲ惹起スル惧アリ政治難民ノ入國ニ關シテハ現在制限規

定ナキモ「マクナツト、ハイコミツシヨナ」ノ盡力ニ依

リ米國領事ニ於テハ比島入國查證附與前比島政府ト協議ス

ルコトトナリ所期ノ目的ヲ達シ居レリ「マクナツト、ハイ

コミツシヨナ」ハ近ク歸米ノ豫定ナリト聞ク處米比關係

緊密化ノ折柄斯ル良キ協力者理解者タル氏ヲ失フハ眞ニ遺

憾ノ極ナリト在任中ノ好意ヲ謝スルト共ニ惜別ノ辭ヲ述ヘ

最後ニ目下世界ハ民主國、非民主國ノ二群ニ分レ居ルモ比

島ハ民主國タリ依テ民主主義ニ基キ國民ノ福祉安寧ヲ増進

シ以テ世界民主主義ノ存續ニ貢獻スヘシト結ヘリ

米、「ダバオ」ヘ郵送セリ

~~~~~

1053 昭和14年1月25日 在マニラ木原總領事代理より  
有田外務大臣宛電報

フィリピン大統領教書において移民割当制が  
提唱された事情につき観測報告

マニラ 1月25日後発  
本省 1月25日夜着

第三六號 第三六號  
往電第三五號ニ關シ

大統領ハ教書等重要文書ハ豫メ「ラ」ヲシテ閱讀セシムル  
コトヲ例トスルニ付教書案ハ數日前ヨリ「ラ」ヲシテ内見

セシメ居リタル次第ナルカ二十二日特ニ邦人ニ關係深キ項

目ナシト内話セル位ニテ當時移民問題ニ關シ何等言及シ居

ラサリシ模様ナルカ右割當制提唱カ大統領ノ意思ニ基クモ

ノナリヤ將又支那移民問題解決ノ爲華府ヨリ特派セラレ居

ル米國移民官及國務省員ノ建議ニ基クモノナリヤ不明ナル

モ(一)昭和十一年大統領教書ニ於テ移民入國取締方示唆シ居

ルコト(同年往電第二七二號及第二七六號(參照))(二)同議會移

民委員會力取締法案ヲ採擇シ政府側殊ニ現議長カ當時司法

長官トシテ通過方強調セルコト(三)比島人力米國旗下ニアル

ニ拘ラス一方的ニ其ノ入米ヲ制限セラレ居ル事實ニ不満ヲ

抱キ居ルコト(四)比島人力獨立問題ニ關聯シ東洋人タルコト

ヲ自覺シ始メタルコト(五)歸化法修正方ニ關スル大統領ノ本

官ニ對スル内話(客年往電第五二八號參照)(六)支那人、印度

人力商人タル資格ニテ入國後労働ニ從事シ比島労働者ニ脅威タルコト<sup>(七)</sup>支那人ノ渡來近年激増シ殊ニ事變以來激増ノ

傾向アリ

移民當局及支那移民政ノ不正事件ニ基ク移民局員ノ大更迭及起訴續發シ政府ハ解決ニ手ヲ焼キ居ルコト等ニ鑑ミ一方東洋人ニ對スル比島側ノ公平ナル態度ヲ示スト共ニ他面割當ニ依リ支那人ノ流入ヲ防止セントスル案ナルヤニ推測セラレ前記從來ノ經緯モアリ具體化スルモノト想像セラルル處議會ニテ同案握潰不可能ノ場合ニハ比島側ノ建前タル東洋人差別待遇撤廢ノ趣旨ニ則リ東洋人ノ歸化ヲ認ムル様現行法修正方工作スルト共ニ我方ニ對スル割當ヲ最モ有利ナラシムル様努力スルコト得策ナルヤニ存セラル(敎書ノ字句ハ各國同一ノ割當トナリ居ルモ割當數ヲ意味スルモノナリヤ判然セス大統領ニ面接ノ際質疑スヘシ)尙「ヲ」ハ二十四日本官ニ對シ大統領ハ二十三日「ヨツト」ニテ最終案ヲ決定セル趣ニテ移民事項ハ最後ニ追加セラレタルモノト想像セラルルカ大統領從來ノ口振ニ鑑ミ右ハ支那人ノ流入防止ヲ主眼トシ米國ノ比島人ヲ含ム人種差別待遇ニ對スル對米「ゼスチユア」ヲモ含ミ居ルモノト察セラレ日本人

ヲ目標トスルモノニアラス  
檢事總長カ其ノ年報ニ於テ歸化法ヲ修正シテ白人及有色人ヲ同等ノ地位ニ置クヘキナリト勸告シ居ルコトモ大統領ノ示唆ニ基クモノナルヘク移民割當提案モ少クトモ表面上東洋人差別待遇撤廢ヲ目標トスル以上主義ニ於テ何等異ナル所ナク東洋人ヲ白人ト同等ノ地位ニ置カントスルコトニ異議ヲ唱フル謂レナシト語レルニ付本官ハ右撤廢主義ニハ贊成ナルモ移民割當案ノミ具體化シ歸化法修正セラレサル場合ハ從來何等ノ制限ヲ受ケ居ラサル邦人移民ハ支那移民制限ノ爲不當ノ影響ヲ蒙ル結果トナルヘキニ付政府ニ於テ是非共成立セシムル考ナラハ割當ヲ有利ナラシムルト共ニ歸化法修正ヲ實現セシムヘキナリトテ適宜大統領ニ示唆方依頼シ置キタルカ本官モ大統領ニ面接シテ米國排日移民法以來本邦朝野ノ移民問題ニ對スル關心、本邦移民ノ過去ニ於ケル貢獻及影響等ヲ説明シ我方ニ對スル最モ公正ナル措置ヲ要請スルト共ニ差別待遇方強調シ他面知己ノ議員ヲ移民委員中ニ入レ議會關係ヲ利導スヘク工作中ナルカ本件ニ關シ御氣付ノ點至急御回電相煩度シ

米ヘ轉電セリ

1054

昭和14年1月26日

在マニラ木原総領事代理より  
有田外務大臣宛電報)

移民割当の設定に当たっては対日関係を十分考慮するようフィリピン大統領へ要望について

マニラ 1月26日後発  
本省 1月26日夜着

第四〇號

往電第三六號ニ關シ

二十五日大統領書記官長ハ本官ノ質問ニ對シ移民法修正ハ東洋人種差別待遇撤廃ヲ天下ニ聲明スルト共ニ支那人ノ流入ヲ主眼トスルモノナルカ割當ハ各國同數トスル意味ナリト答ヘタルニ付過去ニ於ケル對比關係ニ鑑ミ同數トスルコトノ不公平ナルコトヲ説明セル處未タ法案モ起草セラレ居ラサル次第二付割合ニ付テハ篤ト研究スルコトトスヘク尙本問題ニ付テハ「ハイコンミツシヨナー」ノ了解ヲ取付ケ居ルニアラサルヲ以テ假令同法案通過スルトシテモ米國大

統領可裁可スルヤ否ヤ全ク疑問ナルモ比島トシテハ「ケソン」ノ主義ヲ表明且實現シ度キ考ナリト内話セリ依テ二十六日大統領ニ面接シ差別待遇撤廃提唱ハ永年我國朝野ノ等シク強調シ居ル所ト一致スルモノナルカ支那人防止ノ爲ニ從來何等ノ制限ヲ受ケ居ラサル邦人力制限セラレ而モ密接關係ニアラサル他ノ諸國ト同數ノ割當ヲ爲サントスルハ從來ノ日比關係ニ鑑ミ公平ヲ缺クモノト思惟スルニ付割當決定ニ關シテハ充分考慮セラレ度シト述ヘタルニ對シ大統領ハ元來西洋人ハ日本ヲ除ク東洋諸國ニ於テ其<sup>(2)</sup>ノ住民タル東洋人以上ノ特典ヲ與ヘラルコトヲ如何ニモ特權カノ如ク考ヘ居レルモ余ハ彼等カ東洋人以上ノ特典ヲ供與セラルヘキ理由ヲ認メス現行移民法ハ米國法ヲ其ノ儘適用シ居ル爲東洋人ノミカ差別待遇ヲ受ケ居レルモ我々比島人トシテハ此ノ不合理ナル法律ヲ何時迄モ存續スルニ忍ヒス旁米國側ノ思惑如何ニ拘ラス決然右修正方推奨セル次第ナルカ割當ニ付テハ貴見ノ通り充分研究スルコトトスヘシト述ヘタリ尙本官ハ東洋人ヲ西洋人ト同等ノ地位ニ置クヘシトスル御趣意ニ基キ移民法修正セラルル以上歸化法モ修正セラルヘキモノト考ヘラルニ付歸化法修正方議會

宛教書ヲ發セラルレハ閣下ノ主義モ更ニ徹底スヘシトテ右  
發送方慾憲セル處勿論修正ノ必要アルヲ以テ貴見ノ通り取  
計フコト致スヘシ尙他ニ特ニ日本ニ關係深キ法案等アル  
場合ハ其ノ都度「バルガス」書記官長ト充分協議セラレ度  
シト内話セルニ付前記兩問題ハ我方ノ最毛重大關心ヲ有ス  
ル問題ニ付此ノ上共御考慮願度シト述ヘ置キタリ  
米ヘ轉電シ「ダヴァアオ」ヘ暗送セリ

1055

昭和14年1月27日

在米國堀内大使より  
有田外務大臣宛電報

フィリピン移民法修正問題に関する米国国務  
省当局の説明振りについて

ワシントン 1月27日後発

本 省 1月28日後着

第八七號

馬尼刺發貴大臣宛電報第三六號及第四〇號ニ關シ  
廿七日須磨國務省比島事務局長「ジエコブス」往訪本件比  
島移民法修正問題ニ關シ尋不タルニ「ジエ」ハ約二箇月前  
比島側ヨリ其ノ移民法確立ノ爲意見ヲ徵スル目的ヲ以テ國

務省及勞働省ヨリ各一名宛專門家ノ派遣ヲ得タキ旨申越ア  
リ右專門家ハ約一箇月前比島ニ到着シ爾來比島側ト協力シ  
新移民法ノ研究立案ニ從事シ居タルコトト認メラル處右  
ニ關シ國務省ニ於テハ未タ何等報告ニ接シ居ラス然シ乍ラ  
新移民法ノ根本思想ハ(イ)列國移民ニ對シ差別ヲ爲ササルコ  
ト(ロ)比島產業開發ノ爲今後モ外國人ノ入國ヲ必要トスルヲ  
以テ外國移民ノ入國ヲ自由ナラシムルコトニ存スト思考セ  
ラレ一九一七年以來ノ米國移民法ノ經過ヲ基礎トシ研究立  
案セラレツツアルモノト認メラルト述ヘタルニ付須磨ハ新  
移民法ニ依レハ割當制ヲ採用スルコトトナリ居ルカ如ク  
斯クテハ表面上ハ各國平等ナルモ實際問題トシテハ從來相  
當數ノ移民ヲ送リ居ル日本ニ對シテハ差別待遇ヲ爲スコト  
トナル譯ナリ又曩ニ一九三六年移民法ヲ修正シ外國勞働者  
ノ入國ヲ一律ニ禁止セントスル法案比島議會ニ提出セラレ  
タルモ遂ニ成立ニ至ラサリシカ「勞働者」ナル字句ノ解釋  
如何ニ依リテハ日本移民ヲ鮮カラス壓迫スルコトトナリ右  
ノ如キ「ライン」ノ修正案ニ付テモ充分注意ヲ要スル次第  
ナリト述ヘタルニ「ジエ」ハ割當制ハ單ニ一案ニ過キス右  
以外ニモ種々方法アルヘシト認メラル何レニスルモ比島移

2 (移民問題)

民法ハ米國大統領ノ同意ナクシテハ成立シ得ス言ハハ大統領ノ同意ハ同法成立ノ必要條件ニシテ米國トシテモ本件ニ付テハ考慮ヲ加フルノ要アル理ナリト述ヘ  
 更ニ須磨ヨリ東洋人ニ對スル差別待遇撤廢ヲ趣旨トスル歸化法修正案ニ付尋不タルニ「ジエ」ハ歸化法ハ移民法ト異リ特ニ米國大統領ニ於テ不同意ヲ唱ヘサル限り比島限リニテ成立シ得ル譯ナルカ自分トシテハ歸化法ハ蘭印位ノ例ニ倣フコト適當ト認メ居リ比島ハ米國本國ト事情ヲ異ニシ居リ必スシモ米國本國ノ例ニ倣フノ必要ナシト思考シ居レリト語レル趣ナリ

尙須磨ヨリ綿布、魚類、罐詰等ニ關スル比島關稅引上問題ニ關シ往電第二二號「セーヤー」次官補ニ述ヘタルト同様ノ趣旨ニ依リ我方ノ立場ヲ説明シタルニ「ジエ」ハ右ニ付テハ「セ」ヨリ詳細聞及ヒ居レリ本件關稅引上等ニ關スル法案ハ昨日米國議會ニ提出セラレタル次第ナルカ右法案ノ成立ハ比島自體ノ經濟獨立ノ爲ニ必要ニシテ元來綿布等ノ輸入統制ノ爲ニハ紳士協約ノミニテハ急激ニ變化シツツアル事態ニ「ミート」スルコトヲ得ス例ヘハ日本綿布ニ付紳士協約ニ依リ統制スルモ次ニハ支那綿布ニ付紳士協約ヲ結

第二〇一號

1056

昭和14年4月5日

在マニラ木原總領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

斐リピン移民法修正問題に關し割当数を各  
国一律とする法案を米国政府へ提出したとの  
米国派遣員の内話報告

マニラ 4月5日後發  
本省 4月5日夜着

フノ要アリ其ノ煩ニ堪ヘス現ニ在支日本紡績工業製造ノ綿布力支那綿布トシテ比島ニ輸入セラレツツアル狀況ナリ從テ關稅引上ニ依リテ統制スル以外ニ方法ナキ次第ナリト述ヘタル由ナリ(尤モ此ノ議論ニ對シテハ關稅引上ヲ爲スモ紳士協約締結國ヨリノ輸入綿布ニ對シテハ舊稅率ヲ適用ストノ規定ヲ設クルコトニ依リ目的ヲ達スルコトヲ得ヘシトノ趣旨ニテ反駁スルコトヲ得ヘキモ右ハ後日ノ機會ニ讓レル由)

馬尼刺ヨリ「ダバオ」ヘ轉電セリ



過般來支那人移民問題解決ノ爲國務省ヨリ派遣セラレ居ル「ブラント」五日本官ニ對シ比島移民法修正問題ニ付テハ引續キ研究中ナルカ其ノ骨子ハ支那人移民ノ流入ヲ飽迄防止セントスルモノニシテ且「ケソン」大統領ノ議會宛教書ニ於テ明カナル通り無差別待遇ヲ主義トスルモノニ付歐洲各國一樣ニ割當テ實施スル外途ナシ在留民數又ハ過去數個年間ニ於ケル入國者數ヲ基礎トシテ割當テルコトモ研究セルカ右ニ依ルトキハ各國民ノ一年間ノ入國數一萬五千ト假定シ一萬一千ハ支那人トナリ二千餘名カ貴國ニ宛テラルヘキモ支那人ノ入國阻止ヲ根本方針トスル比島政府ノ意図ニ全ク反スル結果トナルヘク且又獨伊方面ヨリノ猶太人及西班牙ヨリノ避難民ヲ始メ白露人ノ流入モ考慮セサルヘカラサルヲ以テ結局割當數ヲ各國一律トセサルヘカラス實際比律賓ニ渡來スル外國人ハ十五個國ヨリ成ルモ公平ヲ期スル爲二十五個國ニ對シ年二百名位トスルコト妥當ナルヤニ考ヘラル

法案ハ既ニ國務省ヘ提出シアルモ右ハ全ク豫備的案ニシテ比島政府ノ同意ヲ得タルモノニアラス

兎ニ角比島ノ將來ヲ考慮スル時外國移民殊ニ支那人ノ流入

ヲ阻止スルコトハ比島政府ノ直面スル最モ重大ナル問題ニ付比律賓議會ヲ通過スルコトハ確實ナリ云々ト内話シ又「コイ」モ準備的法案ヲ華府ニ提出セルカ右ハ決定的ノモノニアラサルモ比島政府案トシテ別個ニ提出セラレサル以上同案カ討議ノ中心トナルモノト思惟スト語レルニ付本官ハ右兩名ニ對シ各國一率ノ割當力實際的ニハ日本ノミニ對スル差別待遇ヲ意味スルコト並ニ猶太人入國ニ關シテハ米比兩大統領ノ了解ニ基キ年一千名ヲ限り入國セシムヘク既ニ調査員モ米國ヨリ到着シ居ルコト等ヲ舉ケ現在何等制限ナキニ拘ラス日本ヨリ比島行移民數ニ増加ノ兆ナキハ滿洲國及北支方面ヘノ渡航者增加スルト共ニ那事變ニ依ル出征軍人多キ爲ナルヘキ處事變解決後ト雖同方面ヘノ出稼ハ更ニ增加スルモノト考ヘラレ且又比島内現下ノ產業竝ニ勞働狀態ハ殊更日本ヨリノ渡來ヲ獎勵スル程「アトラクティブ」ニアラス又天然資源開發制限法規モアリ假令日本ヘノ割當ヲ三千ト假定スルモ恐ラク三分ノ一ノ渡來者アリトハ想像セラレス

他<sup>(3)</sup>統計ノ示ス歸國者數相當數ニ上リ居ルヲ以テ實際ノ在留邦人ハ相當多キ割當ヲ許シテモ餘り增加スルコトナカル

ヘシトテ日本割當増加ノ何等憂慮スル必要ナキコト及從來

法案に對しわが方希望提示方訓令

渡比者ヲ有セサル外國ニ迄一率ニ割當ヲ爲スコトハ全ク無

意味ニシテ實際的關係ヲ有スル國ヘノ割當ヲ不必<sup>(律カ)</sup>要ニ減ス

ルモノナリト述ヘ其ノ不合理ヲ說キタル處「ブ」ハ日本人

ノ歸國者多キハ承知シ居リ又滿支行キ移民ノ增加ニ依リ當

國ヘノ渡來者力増加スヘシトハ思ハサルモ支那人ハ入國ス

ルヤ比島ヲ恆久的居住地ト定メ其ノ家族亦多數ニ上ル爲支

那人數ハ逐年增加シ全ク手ノ着ケ様ナキ狀態トナルコト近

キ將來ニ在リ結局日本其他ノ國ハ支那人入國取締ノ爲傍杖

ヲ喰ヒタル形ナリト語レルニ付右法案カ如何ナル形トナリ

テ現ルルニセヨ兎ニ角米國政府ノ承認ヲ必要トスル關係上

假令比律賓側ノ意思ニ基ク法律ト雖米國側ノ責任ヲ云々セ

ラルコトナキヲ保セサルニ付更ニ考究ノ上最モ公正ナル措

置ヲ講スル様配慮アリタキ旨申入レ置キタリ

米ニ轉電シ「ダヴアオ」ニ暗送セリ



## 2 フィリピン（移民問題）

1057

昭和14年4月8日

有田外務大臣より  
在マニラ木原總領事代理宛（電報）

### 割当数を各国一律とするフィリピン移民割当

本省 4月8日後7時30分発

第五一號（至急）

貴電第二〇一號ニ關シ

若シ先方ガ各國移民ヲ毎年二三百ニ限定スルガ如キコトアラ

バ本邦移民ハ至大ノ打擊ヲ受クベキ處本法案ノ目的ガ支那

移民ノ制限ヲ目的トシ居ルモノトハ云ヘ現在毎年五千人以

上ニ達スル同移民ヲ一舉ニ二百名迄減少セムトスルハ甚ダ

過激ノ措置ト認メラレソノ爲日本側ガ傍杖ヲ喰フハ甚ダ迷惑ニ付當方トシテハ將來ヨリ合理的ナル制限法見付カル迄

或ハ移民ニ關シ日比間ニ特殊ノ諒解又ハ協定成立スル迄比

島側ガ右ノ如キ案ヲ採用セザラムコトヲ希望スルモノナリ

就テハ貴官ハ先方ニ對シ當方從來ノ主張ヲ固執スルト共ニ

貴地方實狀ヲモ參酌ノ上先方法案作製前差當リ措置トシテ

大体左ノ如キ諸案ヲ御見込ニヨリ參考迄至急御提示相成リ

ソノ考慮ヲ求メラルコト致度

一、各外國人ニ對シ毎年最高三千名迄移民ヲ許可スコノ際支

那人ソノ他比島側ノ好マザル移民ニ對シテハ種々ノ條件ヲ設ケ事實上右以下ニソノ入國數ヲ制限ス

三、在比各外國人ノ總數ハ移民ニヨリ毎年二千五百人以上ノ  
增加ヲ許サザルコトトス（從テ日本人ハ毎年歸國移民相  
當多數ニ上ルヲ以テ結局三千人位ハ入國シ得ベキモ支那人  
ハソノ數余リ大ナラザルベシ）尙アル年ニ於ケル移民  
ノ實數方割當數ニ達セザル時ハソノ殘余ノ分ハ順次次年  
度ニ加算シ入國ヲ許可スルコトトス

### 三、非移民ノ範圍ヲ大ナラシム

「ダヴァアオ」ニ暗送アリタシ

米ニ轉電セリ

・・・・・

1058

昭和14年4月11日

在マニラ木原總領事代理より  
有田外務大臣宛（電報）

### 割当數を各国一律とするフィリピン移民割当法 案に關しわが方希望を大統領に説明について

マニラ 4月11日後発

本省 4月12日前着

キ人口ニ逢着スル事明カナリ依テ比律賓ヲ比律賓人ノ爲ニ  
確保スルノ措置ヲ講セサルヘカラサル立場トナレリ支那人  
ハ法規ニ依リ制限セラレ居ルニ拘ラス不法入國極メテ多ク  
加之商人ノ資格ニテ入國ヲ許サル者モ上陸後苦力トナリ  
比律賓人労働者ニ對シ多大ノ脅威トナリ更ニ商人トシテモ  
不法行爲頻發シ當國ノ平和ヲ攢亂スルヲ以テ非常ニ迷惑シ  
居ル次第ナリ

第一〇九號  
貴電第五一號ニ關シ（對比移民ニ關スル件）  
十一日大統領ニ面接シ御訓令ヲ中心ニ我方ノ意向及希望ヲ

彼等ノ日本商品ニ對スル「ボイコット」ノ如キ怪シカラヌ  
行爲ナルカ若シ何等カノ機會ニ此ノ獨特ノ方法ヲ以テ彼等  
カ自ラ小賣店ヲ閉鎖シ民衆ニ對スル販賣「ボイコット」ヲ

述へ米國側竝ニ比律賓議會へ提出スルニ先チ本官ニ法案ヲ  
内示セラル事ハ頗ル感謝ニ堪ヘサルモ何分過激ナル御措  
置ハ日本ニ影響スル所極メテ大ナルヲ以テ本國政府ニ於  
モ多大ノ關心ヲ抱キ居リ更ニ合理的制限法ヲ研究シ得ル迄  
若ハ兩國間ニ何等適當ナル了解成立スル迄見合セ方希望シ  
居ル旨說明セル處大統領ハ本年ノ國勢調査ニ依リ「ルソン」  
地方ノ比律賓人人口ハ歐洲諸國ニ比シ遙ニ密度大ニシテ比  
律賓全體ヨリ見ルモ異常ナル增加ヲ來シ居ル事ヲ發見セル  
カ此ノ調子ニテ進メハ比律賓ハ近キ將來ニ於テ日本ト同シ  
キ人口ニ逢着スル事明カナリ依テ比律賓ヲ比律賓人ノ爲ニ

居ル旨說明セル處大統領ハ本年ノ國勢調査ニ依リ「ルソン」  
地方ノ比律賓人人口ハ歐洲諸國ニ比シ遙ニ密度大ニシテ比  
律賓全體ヨリ見ルモ異常ナル增加ヲ來シ居ル事ヲ發見セル  
カ此ノ調子ニテ進メハ比律賓ハ近キ將來ニ於テ日本ト同シ  
キ人口ニ逢着スル事明カナリ依テ比律賓ヲ比律賓人ノ爲ニ

敢行スルコトアラムカ數百萬ノ比律賓人ハ戰爭ニ依ラスシテ彼等ニ征服セラルヘク右ハ永年ニ亘ル比律賓人ノ不勉強ニ原因スルトハ謂ヘ比律賓國民ノ直面スル重大問題ナリ支那事變以來余ハ支那人ノ脅威ヲ感シツツモ人道的見地ヨリ彼等ノ入國資格ニ多少手心ヲ加ヘ一時的避難民ノ入國條件ヲ緩和セルニ拘ラス支那側ハ之ヲ機會ニ不法入國ヲ企ツル者多キニ鑑ミ右取締ヲ強化スルコトトセル位ニテ此ノ際割當ヲ決定スルヨリ外ニ全ク方法ナキコトヲ發見セルモ東洋人タル比律賓人トシテ支那人ノミニ對シ差別ヲ設ケルコトハ不可能ニ付結局日本人其ノ他ノ外國人ニモ同數ヲ割當テサルヘカラサルコトトナレリ差當リノ措置トシテ外國人登錄規定ヲ設ケ一年内ニ登録セサル者ハ遠慮ナク退去處分ニ附スヘク研究中ニテ在留支那人ノ取締ニ關シテハ再三支那總領事ニ警告セルモ何等ノ效果ナキニ付政府自ラ斷然タル措置ヲ講スル積リナリ尙余カ日本人ニ對シ如何ナル考ヲ持チ居ルヤニ付テハ余カ總ユル機會ニ常ニ日本人ヲ採用シ比律賓民ノ覺醒ヲ促シ居ル點ヨリ見テ明白ナリ

<sup>(3)</sup> 余ハ比律賓人力一日モ早ク日本人ニ習ヒ健康ナル國家ヲ建設セン事ヲ祈願シ居ルモノニシテ比律賓民力逸早ク日本人

ハ一度入國スルヤ歸國スル者比較的少ク結局好マシカラサハ全然ナカリシナラン日本人カ比律賓產業開發ニ貢獻セル事實ハ充分認メ居リ將來雖貴國民ノ援助指導ヲ受ケタキ所存ニ付日本人ヲ排斥セントスル意思ハ毛頭ナキモ某氏（ハイコンミツシヨナ一）ト本問題ニ付討議セルコトアリト述ヘタルニ付キ恐ラク「ハイコンミツシヨナ一」ヲ意味スルナランノ如キハ在留日本人數增加スルニ於テハ日本ノ對支行動ニ徵シ在留民保護ヲ理由ニ日本ハ將來武力干渉ヲ爲スニ至ルヘシト考ヘ居リ比律賓人中ニモ日本人數ノ増加ニモ多大ノ危惧ヲ抱キ居ルヲ以テ此ノ際貴國側ノ「インタレスト」ノミヲ考慮スル事ハ至難トナリ原案ハ自ラ影響スル次第ナルモ余ハ少クトモ日本人ニ依ル諸產業ノ維持ヲ困難ナラシムルカ如キ措置ニ出ツル事ヲ好マス尤モ貴官申出ノ三千名ハ原案トノ開キ餘リニ大ニシテ且或國ニ對シ條件ヲ附スル事ハ各國平等ノ主義方針ニ反スルノミナラス過去ノ實例ニ徵シ支那人ノ不正入國ヲ阻止シ得ル方法ニ非ス又日本人力多數歸國スルコトハ統計ニ依リ明カニシテ從テ何等制限無キニ拘ラス其ノ在留數增大シ居ラサルモ支那人

<sup>(4)</sup>

ル外國人數ノ増加ヲ招來シ彼等ノ入國制限ヲ一年遅ラスコトハ夫レ丈ケ其ノ數ヲ増大セシムルノ結果トナルヲ以テ本年議會ニテ通過セシメ度ク「ハイコンミツシヨナ」モ既ニ内諸ヲ與ヘ居レリト答ヘタリ依テ本官ハ日本人ハ支那人ト異リ比律賓人ノ手ヨリ國民生活ニ最モ關係深キ小賣業ヲ奪ヒ或ハ苦力式ノ勞務ニ從事セントスル者無ク寧口比律賓人小商人ノ擡頭ヲ助ケ居ル現狀ニテ比律賓人勞働者ヘノ脅威トナラサル特殊ノ農工業方面ニ就働スルモノナルニ付表面差別的措置ヲ設ケストモ實際的ニハ支那人ノ入國ヲ制限シ日本人ノ入國ニハ差支無キ様御配慮アリタク又滿洲及支那トノ關係ハ比律賓ノ夫レト全然異リ日本ノ存在ニ對スル脅威ナルカ爲ニ已ムヲ得ス武力干渉ニ出テタルモ比律賓ニ關スル限り日本ノ國家的存在ヲ危殆ナラシムルカ如キ理由ヲ有セス日本トシテハ其ノ獨立ヲ衷心希望シ居ルコトハ既ニ御承知ノ通リニ付

(<sup>5</sup>) 在留邦人ノ増加ヲ以テ武力干涉ノ原因ナリトスルハ日本及日本人ヲ理解セサルモノ若ハ故意ニ日比親善關係ノ離間ヲ企ツルモノノ口實ナリト應酬シ爲念御來示ノ次第ヲ「ノート」ニ認メテ提出シ更ニ考慮方申入レタル處大統領ハ貴方

ノ意嚮及希望ハ良ク了解セルニ付之ヲ閣議ニ提出シ研究スルコト致スヘク免ニ角法案完成次第内示スヘシ右ハ最早時日ナキヲ以テ華府ニ提出スル餘裕ナキモ「ハイコンミツシヨナ」ハ米人専門家ヨリ直接入手シテ國務省ニ送達スルモノト思ハルニ付華府ニ於テ更ニ折衝スル機會アルニアラスヤトテ日米交渉ヲ示唆セリ尙日本人關係ノ事業維持ノ爲ニハ大體如何程ノ移民ヲ必要トスルヤトノ質問アリタルモ天然資源ノ開發ハ法規上制限セラレ居リ現在使用ノ比律賓勞働者ノ代リニ邦人ヲ必要トスルト言ヘハ比律賓人ノ失業ヲ惹起スル結果トナルヘキニ付夫レトナク確答ヲ避ケ置キタルカ右ニ付我方ニ有利ナル御考モアラハ御回電相煩度シ

米、「ダバアオ」ヘ轉電セリ

~~~~~

1059
昭和14年5月15日

在マニラ木原總領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

各国年千名割当の移民法修正案がフイリピン議会に提出されるとの院内総務の内話について

マニラ 5月15日前発

本省 5月15日後着

第三一二三號

往電第三〇五號ニ關シ

十四日夜「パレデス」院内總務ハ本官ニ對シ移民割當法案ハ米國政府トノ打合ヲ要セシ爲完成スルニ至ラサリシモ十
三日華府ヨリ多少ノ訂正ヲ加ヘ内諾シ來レルニ付明日(十
五日)提出ノ運ヒトナル様思ハルル處割當ハ米國側ノ言分
アリタルモ各國トモ年一千名トナリ居リ貴官ヨリ大統領宛
提出セラレタル示唆モ大分織込マレ居ルニ付異議ナカルヘ
シ比律賓トシテハ早キニ及ンテ支那人ノ流入阻止策ヲ講ス
ルニ非サレハ國家生存上不測ノ禍ヲ招來スヘキニ付議會ハ

後四日ニ過キサルモ閉會迄ニ通過セシメタキ政府ノ意嚮ナ
リト内話セリ依テ大統領ニ對スル説明ニ准シ我方ノ希望ヲ
述ヘタル處日本側ノ希望ハ過日國務評議會ニ於テ大統領ヨ
リ説明アリタルヲ以テ大體承知シ居ルモ殊更日本ノミニ對
シ好條件ヲ附スルコトハ結局支那ニ對スル差別的待遇トナ
リ人種ノ如何ヲ問ハス各國平等割當ノ主義ニ反スルノ結果
トナルヘク旁々比島カ極メテ苦シキ立場ニ在ル點ヲ考慮ア
リタク勞働移民委員會ニ於テハ正式法案提出早々審議スル
筈ナリト答ヘタルヲ以テ本官ハ其ノ内容未承ニ付如何ナル
條項ヲ修正スヘキヤ直ニ確言出來サルモ要ハ曩ニ大統領迄
申述ヘ置キタル通りニテ比島トシテハ勿論我方ニ於テモ慎
重考究ノ要アル對外問題ニモアリ輕卒ニ成立ゼシムルコト
ナキ様又出來得ル限り我方ノ希望カ織込マル様盡力方依
頼シ置キ又「オ」其ノ他ニ對シテハ假令政府ノ壓迫アリト
スルモ委員會側ニ於テハ慎重ナル態度ヲ以テ審議スヘク準
備方申聞置キタリ

米、「ダヴァアオ」ヘ轉電セリ



1060 昭和14年8月8日 在マニラ木原總領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

移民法修正案の審議延期をフィリピン大統領

へ要請について

マニラ 8月8日後発
本省 8月8日夜着

2 移民問題

フィリピン
リ好條件ヲ附スルコトハ結局支那ニ對スル差別的待遇トナ
リ人種ノ如何ヲ問ハス各國平等割當ノ主義ニ反スルノ結果
トナルヘク旁々比島カ極メテ苦シキ立場ニ在ル點ヲ考慮ア
リ人種ノ如何ヲ問ハス各國平等割當法案モ審議スル旨

八月十五日特別議會召集セラレ移民割當法案モ審議スル旨
第四四九號

報道セラレ居ルニ付八日大統領ヲ往訪シ我方ハ常ニ比島獨立ノ完成ヲ希望シ對比的ニハ勿論對米的ニモ總ユル方法ニ依リ陰ニ獨立完成ヲ邪魔セサル様最善ヲ盡シ居ルコトハ御承知ノ通リナルカ移民法案ノ目的トスル移民流入ノ防止ハ查證手續ノ改變ニ依リ達セラレ居ル次第ニモアリ日米條約廢棄通告ニ依リ日本朝野力相當刺戟セラレ居ル折柄同法案ノ審議ヲ延期スルコト得策ナルヘシトノ趣旨ニテ懇談セル處大統領ハ極祕トシテ

(一) 移民法案カ支那人ノ流入阻止ニ在ルハ御承知ノ通りナリ余ハ比律賓產業開發上指導者トシテ必要ナル日本移民ノ渡米ヲ制限スル所カ寧口歡迎シ居ルコトハ余ノ從來ノ言動ニ依リ明カルモ之ヲ法規上ニ明記スルコトハ對米關係上不可能ノ立場ニ在ルヲ以テ米國側ノ相當強硬ナル反對ヲ押切り必要ニ應シ大統領ハ割當以上ノ移民ヲ許可シ得ル旨ノ條項ヲ漸々搜入シ得タル次第ナリ獨立完成後ハ大規模ノ灌漑工事法ヲ制定シ日本移民ノ大量輸入ニ依リ諸產業ノ開發ヲ計畫シ居ルモ現在米國ノ對日感情ハ相當惡化シ居ル模様ニモアリ
⁽²⁾ 獨立完成迄ハ余ノ眞意トスル日比提携工作ノ具體化ハ至

(二) ⁽³⁾ 査證問題ニ付テハ貴官ノ「ハイコンミツシヨナー」會見ノ結果余ハ苦境ヲ脱シ得タリ豫テ申述ヘタル通り余ハ右手續ノ日本適用ヲ提唱セルコトナク寧口反對ナルモ移民難ニテ萬事ハ獨立ヲ絕對條件トスルニ付米國ノ一部ニテ獨立反對ノ空氣アリ又米政府ノ方針ニ變化アルカ如キコトアリトスルモ余ハ相當ノ強硬手段ヲ講スルトモ引退前ニ獨立ヲ獲得スル考ナリ米國カ余ノ對日政策ニ相當疑惑ヲ抱キ居ルモ真ニ獨立ヲ欲スル以上日比提携ハ絕對必要ト信ス米國ノ移民法案ニ對スル希望ハ比島側ノ希望トハ異リ寧口日本移民ノ阻止ヲ目標トスルヤニ推察セラレ又同法成立前ニ日本移民ノ急増スルヲ惧レ其ノ對策トシテ余ノ知ラサル間ニ査證規定ヲ日本ニモ適用セルモノト想像セラレ旁余ハ特ニ米國側ヨリノ申入ナキ限り議會ニ對シ同法案通過方強調セサルヘキモ左リトテ殊更阻止スル態度ニ出ツルコト亦(脫)米國カ同法案ヲ極祕裡ニ且急速ニ成立セシメタク前議會ヨリ余ニ迫リ居ル事實ニ鑑ミ審議延期ヲ確約スルコトハ出來サル立場ニ在ルヲ以テ貴官ノ知己ヲ通シ議長及院內總務方面ニ對シ議會カ之ヲ審議セサル様工作セラルコト對策ナルヘシ

法成立前ニ日本移民ノ急増ヲ懸念セル米國側ノ應急措置トモ見ラレ其ノ態度相當高壓的ナルニ鑑ミ余ノ意思ニ反

シ米國ノ希望ヲ容レサルヲ得サリシ次第ナリ日本ハ全面的除外ヲ希望スルモ右適用ノ動機カ敍上ノ通りトセハ恐

ラク米國ノ容認シ得ルコト不可能ナラント想像セラルル處若シ日本側カ新移民ノ事前許可問題ニ關スル米國トノ

交渉ヲ之以上進メサルコトニ同意スレハ米國側ノ目的ハ

一時的ニモセヨ達成セラルル次第二付移民法案ニ對スル態度モ自ラ緩和セラレ又余トシテモ米國ニ對シ早急審議ノ必要ナキコトヲ回答シ得ル次第二付此ノ點日本側ノ意嚮ヲ探リ内報セラルレハ好都合ナリト思惟ス

ト内話セルカ查證問題ニ關シテハ在米大使ニ於テ引續キ御折衝ノコトト存スルモ若シ米國ノ意嚮カ前記大統領ノ想像

(移民問題)ニ近キモノトセハ米國カ全面的除外ノ申入ヲ容認スルヤ疑問アリ爰新移民ノ事前許可取付ニ關シ比律賓側ト充分了解ヲ遂ケルコトトシ移民法案ノ審議ヲ阻止スルコトモ一策ナ

ルヤニ存セラル更ニ大統領ト折衝ノ都合モアリ何分ノ儀至急御回示相煩度シ
フィリピン

米ヘ轉電シ「ダヴアオ」ヘ暗送セリ

1061 昭和14年9月25日 在マニラ木原總領事代理より
野村外務大臣宛(電報)

フィリピン移民法修正案の議会提出延期を大統領内話について

マニラ 9月25日後発

本省 9月25日夜着

第五五三號

大統領ハ二十五日本官ニ對シ移民問題ニ關シテハ貴官ヨリモ再三申入アリタルカ米國側ハ同法案ノ採擇ヲ急キ居ルモ國際情勢紛糾ノ際ニモアリ余ハ同法案ノ提出ヲ見合スコトトセリト内話セリ

米、「ダバオ」へ轉電セリ

1062 昭和15年2月7日 在マニラ吉田(丹一郎)總領事より
有田外務大臣宛(電報)

フィリピン移民法修正案の議会提出延期ないしは審議延期を大統領に進言するよう大審院判事へ申入れについて

付記 昭和十五年二月十九日、亞米利加局第一課作成

「比島移民法改正ニ對スル對策試案」

マニラ 2月7日後発

本省 2月7日夜着

ノ「アドヴァアイザー」ノ地位ニ在ルヲ以テ本件ニ付テハ早速大統領ニ會見ノ上忠告スヘシ」トテ之ヲ快諾シタリ
米ヘ轉電シ「ダヴアオ」ヘ暗送セリ

第三二號(極祕)

米發貴大臣宛電報第一二八號末段ニ關シ

(付記)

比島移民法改正ニ對スル對策試案

一五、二、一九、米一

國同様割當制ヲ執ルモノ由ナリ既ニ事前ニ米本國ト了解アル以上法案議會通過ヲ阻止スル以外ニ方法之無ク議會方面ニハ手配セルモ右ノミニテハ安心致難キニ付六日「ケソン」大統領ノ最モ信賴セル一人ナル「ラウレル」大審院判事ヲ往訪シ「内容ノ如何ヲ問ハス此ノ際移民法案ノ通過ハ恰モ比律賓民ハ日米通商條約失效ノ機ヲ利用セルカノ感ヲ與ヘ日本側輿論ヲ甚シク刺戟スルノミナラス比島政府ニ對スル好感ヲモ傷ケ兩國關係ニ及ホス惡影響鮮カラス要スルニ最モ「インオポチユーン」ナルヲ以テ之カ提案乃至審議ヲ延期スル様貴下ノ意見トシテ大統領ニ忠言アリ度キ」旨申入レタル處「ラ」ハ全然本官ノ意見ニ贊成ニシテ「自分ハ法律問題ハ別トシ特ニ日比關係ニ付テハ常ニ「ケソン」

- (2)恰モ比律賓民ハ日米通商條約失效ノ機ヲ利用セルカノ感ヲ與ヘ日本側輿論ヲ甚シク刺戟スルノミナラス比島政府ニ對スル好感ヲモ傷ケ兩國關係ニ及ホス惡影響鮮カラス要スルニ最モ「インオポチユーン」ナルヲ以テ之カ提案乃至審議ヲ延期スル様貴下ノ意見トシテ大統領ニ忠言アリ度キ」旨申入レタル處「ラ」ハ全然本官ノ意見ニ贊成ニシテ「自分ハ法律問題ハ別トシ特ニ日比關係ニ付テハ常ニ「ケソン」
- 1、日米通商航海條約廢棄後日米關係機微ナル際比島力例へ直接帝國ヲ目的トセズト雖モコノ種法案ヲ通過セシムルトキハ我力方ノ對比島友好感情ニモ惡影響ヲ及ボスベキニ付此際一時移民法ノ審議ヲ見合スコト適當ナルベキコト
- 2、先般比島行移民ノ查證手續ヲ複雜化セルニ依リ右手續ヲ嚴格ニ施行スルニ於テハ實質上支那人ノ大量移民

ヲ制限シ得ヘキコト

3、入國查證手續ニ關スル交渉長ラク遷延シタルタメ昨年度ニ於テハ本邦比島渡航希望者ハ渡比不可能ナリシコト

ヲ適宜比島政府ニ申入レ又關係議員ヲモ動員シテ移民法ノ本會議提出ヲ阻止シ本會議ニ提出セラレタル場合ハ審議未了ニ終ラシムル様工作スルコト。

二、然レドモ査證手續ニ關スル交渉中得タル印象ニヨレバ本

移民法ノ通過ニハ米國側モ相當之ヲ「バツク」シ居リ移民法案モ國務省、勞働省ノ専門家ノ立案ニ係ルモノナルニ付比島内ニ於ケル通過促進運動ト相俟チ或ハ本改正案ノ通常議會通過阻止ハ困難ナルヤモ知レズ、我方ノ阻止工作成功ノ見込ナキ場合ハ

(1) 割當數

(2) 非移民及非割當移民ノ範圍

(3) 大統領ノ特別許可制

ノ三者ニ付我方ニ有利ニ解決スル様工作スル要アリ。

(1) 割當數

割當數ハ目下千名ト内定シ居ルカ當方トシテハ一應割

非割當移民

法案ハ(イ)就職ノ決定セル者、妻及二十一歳以下ノ未

當數ノ増加ヲ要求スルコト可然。但シ右我方ノ要求貫徹困難ナル場合ハ歸國者ハ割當數ヨリ控除シ右數ニ相當スル交替者ヲ送リ得ル様工作スルコト尙或ル年ニ於ケル移民ノ實數カ割當數ニ達セサルトキハソノ殘余ノ分ハ順次次年度ニ加算シ入國ヲ許可スル様工作スルコト

ト

(2) 非移民及非割當移民ノ範圍

非移民

法案ハ(イ)一時旅行者、(ロ)通過者、(ハ)船舶乗組員、(ニ)専ラ日比貿易ニ從事スル者ゾノ妻及二十一歳以下ノ未婚ノ子女、(ホ)再渡航者、(ヘ)學生ヲ非移民トシテ取扱ヒ居ル處右ノ中「専ラ日比貿易ニ從事スル者」ハコレヲ「比島ニ於ケル商社ノ善意ノ使用人」ト訂正シ妻子ノミナラス家族使用人ヲ包含セシムル様工作シ同時ニ宗教家、教授及藝術家等學術的職業ニ從事スル者竝其ノ家族、博覽會參加人及其使用人等ヲ追加スル様工作スルコト

非割當移民

婚ノ子女(法案第二十條ニ依リ査證ヲ與ヘラレタル者トアルカ法案第二十九條A⁽¹⁴⁾契約労働者ノ入國禁止條項トノ關係ニ鑑ミ契約労働者ヲ包含セス實質上

「専ラ日比間ノ貿易ニ從事スルモノ」ニ該當セサル

「比島ニ於ケル商社ノ善意ノ使用人」ヲ意味スヘシ

(ロ)比律賓市民ノ妻又ハ夫及二十一才以下ノ未婚ノ子

女(ハ)比島ニ正當ニ居住シ居リタル母ノ一時外國旅行

中外國ニ於テ出生セル子(二)査證取付後出生セル子(ホ)

外國人ト結婚シタルニ依リ比島國籍ヲ喪失セル女其

ノ二十一才以下ノ未婚ノ子女(ハ)本法實施ノ際正當ニ

比島ニ居住シ居リタルモノノ夫又ハ妻及二十一才以

下ノ未婚ノ子女トナリ居ル處右法案第二十條ヲ電照

ノ上法案ノ「就職決定セル者」ト「契約労働者」ノ

限界ヲ明確ナラシムル要アルト共ニ呼寄家族及農業、

漁業、林業、鑛業等ノ技術指導員ヲ追加スル様工作

スルコト、(呼寄家族ハ上記(ハ)ヨリ「本法實施ノ際」

昭和15年2月29日 在マニラ吉田總領事より
有田外務大臣宛(電報)

フィリピン移民法修正案の議会提出および審

「プランテーション」ニ働ク農業労働者ノ入國ヲ許可スルモ支那人ノ入國數ヲ増加セシメス且斯ノ種農

業労働者ハ比島労働者ノ生活ヲ脅威スルモノニ非ズ多數比島人労働者ノ技術的指導者ト目セラルベキヲ

以テ非割當移民トシテ追加スル様工作スルコト

(3) 大統領ノ特別許可

(ア)(2)ハ「大統領ハソノ定ムル條件下ニ於テ本法ニ別段ノ規定ナキトキハ外國人ニシテ一時の期間渡來スル者ハ非移民トシテ許可ス」ト規定シ居ルニ付上記非移民及非割當移民ノ範圍擴大ニ關スル我方要求貫徹ノ見透ツカザル場合ハ右該當者ハ本條項ニヨリ大統領ノ權限ヲ以テ入國ヲ許可スル様、文書ノ交換又ハ非公式書物ノ交換ヲ行ヒ置クコト、但シ非割當移民ノ追加要求事項ハ一時的渡航ノ性質ヲ有スルモノニ非ルニ付成ル可ク非割當移民トシテ法案ニ追記方工作スルコト。

議見込みに関する大統領の説明振り報告

マニラ 2月29日後発

本省 3月1日前着

第四九號

往電第四三號ニ關シ

二十九日「ケソン」大統領ニ面會移民法案ニ付質問ノ上往電第二三號ノ「ライン」並ニ實際ノ數字ニ基キ當方ノ希望ヲ述ヘ意見ヲ交換セルカ大統領ノ意見大要左ノ通り

本法案ハ客年ノ議會ニテ審議スヘキ筈ノ處貴國政府ヨリ暫ク留保方要望アリタルニ付其ノ後特別議會ニ於テモ上程差控ヘ今日ニ及ヘルモノニシテ之以上差繰ルコトハ自分ノ立場上モ困難ナリ

實ハ當地ニ猶太人避難民相當數渡航シ來レル處現行法ノ下ニ於テハ取締不可能ナルニ付米大統領ニ對シ避難民制限方要望セル處然ラハ右目的ニ副フ様トテ新移民法ヲ米官憲ノ手ニ依リ起案サレタル次第ナルカ右ニ付我方ヨリ人種的差別撤廢ヲ主張シ之ヲ容レ得タリ

新移民法ハ支那人移民制限カ主タル目的ノ一ナルカ支那移民ハ労働者ニアラスシテ小商人力殆ド總テヲ占メ居リ現在ニ於テハ比島人ノ日常生活ハ支那小賣商人ニ依存シ居リ支

那商人ニ「ボイコット」セラルルトキハ忽チ生活ノ脅威ヲ受クル状態ニテ此ノ意味ヨリ此ノ種商業移民ハ制限セサルヘカラス

自分ノ見ル所ニテハ日本人ニ對シテハ現在ヨリ格段ニ不利ナリトハ考ヘラレス一千名ナル數字ニ付テハ再三木原代理ニ語リタルコトアリ又特ニ大統領ノ權限ヲ以テ入國特許ヲ爲シ得ル條項ヲ存シ置キタルヲ以テ自分ハ之ヲ日本人ノ爲ニハ最大限度ニ利用スル考ヘナルヲ以テ以上ノ諸點ヨリ日本民衆ニ充分説明セラレ比島政府ノ意圖ニ付誤解セラレサル様盡力方衷心ヨリ希望ス

唯茲ニ最モ憂フヘキハ議會ニテハ移民數一國五百名説強ク大勢ハ右ニ傾キ居ルコト之ナリ

尙詳細ハ法案ニ付研究セラレ議會移民委員長ニ御意見内密ニ開陳アリタシ但シ法案ハ委員會以外絶對極秘ノモノナルモ特ニ貴下ノ手ニ入ル様手配スヘキニ付右御含置キアリタシ云々

右様ノ次第ニテ從來ノ上程延期方ノ運動ハ見込ナキカ如ク依テ出來得レハ審議未了ト致度キモ今期議會ハ四月中旬迄ノ由ニテ前途相當日數アルヲ以テ審議引伸モ一方ナラス困

難ナルヘシト存セラル

1064

昭和15年3月7日

在マニラ吉田總領事より
有田外務大臣宛(電報)

フィリピン議會議長など関係者に日比親善の

大局部的見地から移民法案の審議見合せを勧説
について

マニラ 3月7日後発
本省 3月7日夜着

第五三號

往電第四九號ニ關シ

其ノ後議會議長「ユーロー」並ニ議會移民委員會委員長

「マガロガ」ト三回ニ亘リ話合ヒ當方主張ニ付反復説明シ

日比親善ノ大局的見地ヨリ此ノ際本法案ノ審議見合七然ル

ヘキ旨勧ムルト共ニ萬已ムヲ得ス審議ノ際ニ於ケル當方ノ

要望ニ付貴電第三五號ノ「ライン」ニ依リ申入レタル處兩

人共本議案ハ二年越シノ懸案ナル關係上重ネテ延期困難ナ

ル旨及本案主要目的ハ猶太人並ニ支那人(商業移民大多數

ナリ)制限ニ在ル爲日本人ニノミ有利ナル様取扱フハ技術

的ニ頗ル困難ナル所ニシテ委員會ノ空氣ハ五百人說大多數

ニシテ少數ノモノハ三百人ヲ主張シツツアル旨ヲ述ヘタル

カ當方ノ修正意見ニ付テハ委員會ニ於テ討議スヘキ旨答ヘ

「マ」ハ能フ限り當方希望達成ニ付努力スヘシト述ヘ居タ

リ

尙別途情報ニ依レハ一部議員ハ「ハイ、コンミツシヨナ!」

ノ仲介ヲ以テ華府側ヨリ五百人制限ニ付諒解ヲ取付ケタル

趣ナリ

米ヘ轉電シ「ダバオ」ヘ暗送セリ

。。。。。。。。。

1065 昭和15年4月13日

在マニラ吉田總領事より
有田外務大臣宛(電報)

フィリピン移民法修正案は割当數を各國一律五

百名に切下げる第二讀会で採択された旨報告

マニラ 4月13日前發

本省 4月13日後着

第九四號

移民法案ハ十二日第二讀會ニ上程審議ノ結果割當數ヲ五百

ニ切下ケ二十九對十八ヲ以テ原案採擇セラレタリ

米へ轉電シ、「ダヴアオ」へ暗送セリ

~~~~~

1066

昭和15年4月15日

在米国堀内大使より  
有田外務大臣宛（電報）

### フィリピン移民法修正問題に関する米国務省担当者との意見交換につき報告

ワシントン 4月15日後発  
本 省 4月16日後着

第五四八號

往電第五三五號二關シ（比島移民法ニ關スル件）

十五日森島「ヒス」比律賓局長代理ト會見（「バレンタイン」同席）冒頭往電ト同趣旨ノ説明ヲ爲シタル上日本側ノ立場ニ付充分ノ考慮ヲ加ヘラレントコトヲ求メタルニ「ヒ」竝ニ「バ」ハ未タ公電ニ接セス唯五百ニ切下ケ第一讀會通過ノ旨新聞電報アリタルノミナル處米政府トシテハ此ノ種問題ハ比島議會ノ權限ニ屬シ居リ比島議會ニテ最後的決定ヲ爲シ華府ニ廻リ來ル迄ハ何等ノ措置ヲ取ルヘキ立場ニアラサル次第ニテ又假令五百ニ切下ケラルトモ永住的移民ノ外ニ會社員其ノ他一時渡航者等ニ關スル條項アルヲ以テ

日本人ニ取り左シタル支障無カルヘキ旨述ヘタリ依テ森島ヨリ當大使館トシテハ比島議會ト米政府トノ權限問題等ヲ云爲セントスルニアラス元來移民問題ハ一九二四年移民法等ノ經緯モアリ日本國民全般ニ於テ特殊ノ「センシティブネス」ヲ有シ居ル問題ニシテ且本件立法當初ノ目的カ支那竝ニ猶太系移民ノ防止ニ在ルニモ鑑ミ日米國交ノ大局ヨリ政治的考慮ヲ求メタキ次第ナリ又比島政府ニ對シ進ンテ措置ヲ取り難シト言ハルルモ現ニ入國查證ノ問題ニ關シテハ當方ト國務省トノ間ニ數次意見ノ交換ヲ爲シ右ニ基キ新タノ修正ヲ爲サレタル經緯モアリ

比島ニ對シ政治的ニ有力ナル立場ニ在ル米政府トシテ何等ノ措置ヲ執リ難シトハ受取レス公式タルト非公式タルトハ別トスルモ日本政府ノ要望ニ基キ何等カ「サジエスト」セラルルコトハ不可能ニアラサルヘク米政府ノ「サジエスシヨン」ハ極メテ有效ナリト信スル旨述ヘタルニ「ヒ」及「バ」ハ論點ヲ脱シニ千八百ノ數字ニ付何等カ統計等アリヤト尋不タルヲ以テ森島ヨリ須磨參事官ヨリ「ジエイコブス」ニ提出濟ナリト答ヘタルニ兩人共問題ノ詳細ニ通シ居ラサルヲ以テ明後日「ジエイコブス」ノ歸華迄待タレタキ

旨繰返シタルヲ以テ森島ヨリ然ラハ國務省ニ於テ明後日迄  
二公電入手ニ至ラハ話合進捗上好都合ナルヘク至急電照ア

リタキ旨要求セリ右ニ對シ「ヒ」及「バ」ハ元來此ノ種問

## フィリピン移民法修正案の成立阻止に向けた わが方の動きを米国ハイコミッショナーが強 く抗議について

マニラ 4月16日後発

本省 4月16日夜着

### 第九八號

細ノ事情ヲ電照セラルルニハ及ハス十三日「グレーデイ」  
次官補ニ會見ノ際公電接到前話合ヲ爲スコトハ不適當ナリ  
トノ御話ナリシニ付少ク共五百ニ切下ケノ點竝ニ二讀會通  
過ノ點位ハ電照セラルルコト然ルヘキ旨力說シタルニ  
「ヒ」及「バ」ハ本日御來示ノ次第ハ委細上局ニ報告スヘ  
ク最後ノ電照ノ點ニ付テハ「グ」次官補ノ意見ヲ求ムヘキ  
旨答ヘタルカ森島ハ之以上論議ヲ重ヌルモ「ヒ」及「バ」  
兩人ノ立場上如何トモ爲シ兼ヌルト認メラレタルニ依リ右  
ニテ會見ヲ打切レル趣ナリ  
馬尼刺ヘ轉電セリ

1067 昭和15年4月16日

在マニラ吉田總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

~~~~~  
十五日「セーヤー」ノ申出ニ依リ「バギオ」ニ於テ會見セ
ル處同人ハ先ツ「貴官ハ目下比島議會ニ於テ審議中ノ移民
法案ニ付「ケソン」、「ユーロー」、「マガロナ」等ト會談セ
ラレタルコトアリヤ」ト尋不タルニ付「然リ」ト答ヘタル
處「セ」ハ「彼等ノ自分ニ語レル所ニ依レハ貴官ハ法案通
過阻止方ニ付彼等ヲ「インフルエンス」サレタル由ナルカ
自分ハ之ヲ最モ不愉快ニ思フ次第ニシテ移民問題ハ比島政
府ノ取扱フ問題ニアラスシテ米政府ノ所管ナリ殊ニ領事官
ハ「コンマーシヤル・オフィサー」ニシテ「ボリチカル・
オフィサー」ニアラス從テ政治ニ係ルコトヲ得ス(此ノ點
如何ナルコトヲ意味スルヤ稍明瞭ヲ缺ケリ)本件ハ中央ノ
問題ト爲サンカトモ存シタルモ徒ニ世間ノ論議ヲ釀シ兩國
ノ爲宜シカラサルニ付自分ト貴官トノ間ニ結末ヲ附ケタク

依テ今後貴官ハ此ノ種行動ヲ執ラレサル様要望ス」ト述ヘタルニ依リ本官ハ「比島紳士等カ本官ノ話ヲ如何ニ感シ貴官ニ報告シタルヤハ自分ノ知ラサル所ナルモ
 自分ハ他用ヲ以テ「ケソン」訪問ノ際談偶々日本移民ニ及ヒタルニ依リ自分ハ世間ニ日本移民ニ付事實ニ反スル脅威ヲ感セシムル噂傳ハレルヲ以テ入國者實數定住者實數等ニ付實情ヲ話セル處「ケ」ハ目下ノ移民法ニ取り最モ有益ナル資料ニ付「ユ」及「マ」ニ説明アリタキ旨求メラレタルニ依リ自分ハ之等兩人ト會談セル次第ナリ内政ニ干渉スヘカラサルコトノ如キハ百モ承知シ居レルモ自分ハ本邦ノ利害ヲ感スル問題ニ付駐在國官邊ノ人々ニ對シ實狀ヲ説明スルノ權利ハ享有スル次第ナリ」ト答へ「セ」ハ本官カ「インフルエンス」セリト主張シ本官ハ自分ハ斯ル意嚮ヲ以テ話セル次第ニアラスト應シ押問答三十分餘結局「セ」ヨリ今後ノコトニ付保證ヲ得度シト求メタルニ依リ本官ハ「今後モ内政ニハ干渉スル意嚮毫モ無シトハ謂ヒ得ヘシ」ト述ヘ右ニテ本件ハ解決ノコトトセリ
 米ヘ轉電セリ

1068

昭和15年4月17日 在マニラ吉田總領事より

有田外務大臣宛(電報)

移民法修正案のフィリピン議会第二読会通過の経緯について

マニラ 4月17日後発
 本省 4月17日後着

第一〇一號(極祕)
 往電第九三號及第九四號ニ關シ

本件ニ付テハ屢次ノ拙電ニテ御承知ノ通リ米、比兩當局竝ニ議會首腦部トモ最初ヨリ今期議會ニ於テ是非トモモノニ爲サント期シ居タル次第ニテ當方ハ之ニ對シ只管審議遷延ヲ目指シ工作シ來リ議案出現以來一箇月半ニ亘リ最後ノ斷ヲ引キ延シ來レルモ遂ニ及ハス而モ當方ノ修正意見容レラセサリシノミナラス割當數ハ原案ノ半數ニ減セラル最惡ノ事態ヲ出現シタリシハ遺憾ナリ
 割當數ニ付テハ「ケソン」ハ最初ヨリ原案千名ヲ主張シ居リ本官カ親シク同人ニ確メタルノミナラス人ヲシテ確メシメタル結果竝ニ他方面ヨリノ情報ニ徵スルモ「ケ」ノ千名固執ハ確カナル事實ト認メラレ院内總務「パレデス」移民

委員長「マガロナ」等モ千人說ニモアリ尙當方ノ工作ニ依リ千人說ヲ主張スル議員モアルコト等ヲ考慮ニ容レ勿論他方院内ニハ五百人說、二百人說等アレハ容易ニ一致ハ見難カルヘキモ多少ノ曲折ハアリトモ結局千人ニ落着クヘキ見込多分ニアリシカ採決ニ當リテハ幹部等ハ總テ原案支持ナリシ處群小議員五百人說ニ起立シ數ニ於テ破レタリ(當日缺席議員意外ニ多カリキ)

諸般ノ修正ニ付テハ議長モ「マガロナ」モ本官(ヘ)ノ説明ニ當リ其ノ全部ニハ非サルモ大體ニ於テ尤モナリトノ意見ニテ兩人トモ之ヲ審議スル意嚮ナリシコトハ本官ニ明言セル所ニテ又當方ノ工作ニテ他議員モ修正案審議ノ際ハ之ニ賛同ノコトトナリ居タル處既ニ報告ニ及ヒ置キタル通り割當數以外ノ如何ナル修正案モ審議ヲ許サヌ只向ニ原案通過トナリタル次第ナリ

ストテ比島政府及議會側ニ迫リタルハ疑ラ容レス斯ク慘敗ヲ喫シ本省トシテモ定メテ御不満ナルヘキモ一二本官ノ不明不敏ノ致ス處眞ニ申譯ナキ次第ナリ尙既ニ大勢決シタルモ爲念最後ノ努力トシテ第三讀會ニ際シ何分ノ工作ヲ試ミ度キ積ナリ

1069

昭和15年4月20日 在米国堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

移民割当數は千名が合理的とのわが方希望を
米国政府が支持する旨をフィリピン政府へ通報するよう米国國務長官へ要請について

ワシントン 4月20日後發
本 省 4月21日後着

第五九二號

往電第五七四號ニ關シ

法案成立ハ已ムヲ得サルヘシトハ豫期セラレタルコトナルモ當初ノ空氣ハ割當及修正ニ付テモ比較的良好ナリシニ半頃ヨリ稍變調ヲ示シ終リニ至リテ全ク硬化セルハ往電第八六號及第九三號ノ通リ米側ノ重壓次第二加ハリ來リタル爲ニテ米側トシテハ最早面目ニ掛ケテモ之ヲ通ササルヘカラ

二十日本使國務長官ト會見本使ヨリ比島移民法問題ニ付テハ森島參事官ヨリ「グレー・デイ」次官補「ジエコブス」局长ト話合ヲ爲シ居タル處本件ハ日本ニ對スル影響甚タ大ニシテ就中移民割當數ハ千名ニテモ少キニ失スル實情ナルニ

拘ラス更ニ之ヲ五百名ニ削減シテ比島議會ニ於テ第二讀會通過セリトノコトナルカ右成立セハ日本ハ頗ル迷惑ヲ蒙ルコトトナル次第二付曾テ「ジエ」局長ヨリ我方當初ノ要望ニ付割當數ハ千名位カ合理的ナルヘシト述ヘタル經緯モアリ我方ハ此ノ際米政府ニ於テ少クトモ千名トスル様斡旋スルコト至當ト認メ過般來森島ヨリ右ヲ申入レ「ジエ」局長モ我方希望ヲ比島側ニ取次キ方約シタル趣ナルカ右ハ單ナル取次キニ止マラス米政府トシテ我方希望ヲ支持スル旨ヲ申シ送ラレタシト述ヘタル處長官ハ移民法問題ハ比島議會ノ權限故米政府ヨリ「プレツシユア」ヲ加フル譯ニハ行カサルモ御希望ノ點ハ出來得ル限り比島側ニ申傳フル積リナリト答ヘタルニ付本使ヨリ實ハ「セイヤー」ハ比島移民問題ハ米政府ノ權限内ニ在ル旨馬尼刺駐在ノ日本總領事ニ語リタル由ナルカ何レノ權限ナルヤハ此ノ際別問題トスルモ過去ニ於テモ本邦人ノ對比入國手續問題ニテ米政府ノ斡旋ヲ得タルコトアルニ鑑ミルモ此ノ度我方ノ希望ヲ比島ニ取次カルルノミナラス之ヲ支持スル旨申送ラルルコトニ障害アルヘシトモ覺エスト言ヘルニ長官ハ委細ハ係官ニ傳へ出來得ル限り好意的取計ヲ爲スヘキ旨ヲ約シタリ依テ本使ヨ

1070

昭和15年4月25日 在マニラ吉田總領事より
有田外務大臣宛(電報)

邦人企業が必要とする邦人入國數は保証する
ので移民法修正案成立に理解を示された旨

フイリピン大統領要望について

マニラ 4月25日後発
本省 4月25日夜着

第一三三號(大至急、極祕、館長符號扱)

二十五日午前「ケソン」ヨリ面會ノ申越アリタルニ依リ出向キタル處司法長官、議長、議會院内總理^(務カ)、内閣書記官長等列席ノ上ニテ「ケ」ヨリ「本日ハ移民法案ノ件ニ付御出テヲ願ヒタルモノナルカ之ヲ實質的ニ見テ日本ニ果シテ幾何ノ實害アリヤノ點ニ付考究シタク尙既ニ御承知ノコトナルモ一應本法案今日迄ノ事情ヲ説明スヘシ」トテ三年來ノ

リ本件ハ目下比島議會ニ於テ審議進行中ト思ハル故速ニ右御取計ヲ得度シト要請シタルニ對シ長官ハ早速電報スヘシト答ヘタリ
馬尼刺ヘ轉電セリ

經緯ノ概略、無差別待遇ノ方針、支那人移民ノ能フ限リノ削減竝二國內失業問題及國家主義論調ノ擡頭等ヲ述ヘ「依テ政府ハ千人ノ原案ヲ出シタルモ測ラスモ議會ニ於テ五百人ニ削減セラレ自分トシテモ勿論満足ニアラサルモ更ニ審議シ直ストセハ輿論ハ素ヨリ議會ニテモ相當五月蠅ク且其ノ間或ル方面ヨリノ動キモ加ハリ來リ洵ニ困難ナル情勢ヲ齎ス惧アリ

更⁽²⁾ニ尙之ハ詳細ハ申兼ヌルモ本年ハ議會ニ於テ出來得ル限り問題ヲ惹起セサル様取計ハサルヘカラサル頗ル困難ナル事情(明年ノ大統領選舉ヲ控ヘ「ナシヨナリスター」分裂ノ兆ヲ指スモノナルヘシ)アリ旁是非共此ノ際本法案ヲ成立セシメサルヘカラサル次第ナルカ五百人ニテハ貴方ニ如何ナル實害アリヤ忌憚ナキ御意見述ヘラレタシ」ト述ヘ尙特別許可條項ニ付「ケ」ハ「何時ニテモ何人ニテモ大統領限リノ意嚮ニテ入國ヲ許可シ得ル次第ナリヤ」ト司法長官ニ質シタルニ長官ハ「然リ」ト答ヘ他ノモノ何レモ自分等モ同様ノ解釋ナリト述ヘタリ其ノ時書記官長ヨリ入國本邦移民實數ニ付説明アリ依テ本官ハ「貴政府ノ無差別待遇方針

トモナラハ差引ハ恐ラク實數百人トモナリ毎年減退スル勞働力ヲ補充スルコトスラ叶ハス

元來我政府トシテハ本法ニ對シ數々ノ修正希望アルハ既少クトモ諸氏ニ說明セル通りナルカ此ノ際特ニ政府ハ是等希望ヲ暫ク差控フルコトトスヘキモ千人丈ケハ維持シタキ強キ希望ヲ有ス」ト述ヘタル處「ケ」ハ他ノ者ニ退席ヲ命シ本官ト二人限リトナリ「日本政府ノ言ハル所モ尤モナル點アルモ自分カ日本ニ利益ヲ計ルカ如キコトノアリ得ヘカラサルコトナルハ知ラル所ナルヘシ」トテ對米對内關係ニ困難ナルヲ述ヘ「日本人勞力輸入ニ付テハ心配無用ナリ四五千ト言フ大量ニテハ問題ナレト「ダヴアオ」其ノ他ノ邦人企業ノ要スル程度ノ日本人ハ特別許可條項ニ依リ自分ハ必ス入國セシムヘシ是ハ法律上可能ニシテ自分ハ是ヲ必スヘシ(I can and I will)依テ今回ハ自分ノ言ヲ信賴セラレ一應此ノ儘法案成立ニ協力アリタシ」ト誠意ヲ面ニ示シ説キ居タリ依テ本官ハ貴見ノ次第ハ大臣ニ申進スヘシトテ引取り

然ルニ約一時間後重不テ面會ノ申入ニ依リ出向キタル處恰ニハ敬意ヲ表スル所ナルモ毎年移民入國者平均二千數百人

モ内務太藏兩長官ト會談ヲ終リタル所ノ如クナリシカ「ケ」

無修正通過した旨報告

ハ本官ヲ別室ニ招シ「其ノ後更ニ各方面トモ協議セルモ議

會ニ千(人)ヲ押付クルコトハ到底成功ノ見込無シ且事態ヲ

悪化セシムル惧多分ニアリ故ニ平常ノ年ニ於ケル邦人移民

ノ趨移ハ自分ニ於テ充分「ギヤランティ」スルヲ以テ此ノ

程度ニテ日本政府モ御承認セラレ此ノ上事態ヲ悪化本法不

成立ノコト無キ様何トカ御配慮アリタク此ノ點ニ付日本政

府ノ意嚮ヲ日曜日午後迄ニ承知シタク月曜早朝ノ閣議迄ニ

自分ノ肚ヲ決メタシ」ト述ヘタルカ同人力誠意ヲ以テ述べ

居レルハ勿論其ノ立場モ頗ル同情スヘキモノアリ加之當方

トシテ平常年度同數ノ移民入國ヲ得ハ實質上現狀ニ或ハ勝

ルヘキ點アリ旁(之)以上事ヲ荒立ツル要モ無カルヘシト存

セラル然ルヘキ御意嚮日曜日正午迄ニ御來示アリタク尙本

件ハ「ケ」ノ立場モアリ絶對外部ニ洩レサル様御留意アリ

タシ~~~~~

1072 昭和15年5月3日

フィリピン移民法問題に関する情報部長談話

比島移民法問題に關する情報部長談

昭和十五年五月三日

1071 昭和15年5月3日 在マニラ吉田総領事より
有田外務大臣宛電報

フィリピン移民法修正案が第三読会において

マニラ 5月3日前發
本省 5月3日後着

第一四三號(至急)

移民法案ハ二日第三讀會ニ上程採決ノ結果六十七對一(「オ

プス」ノミ反對投票)ノ絕對多數ヲ以テ無修正通過セリ

尙之ヨリ先委員會ニ於テ法案第三十一條中ノ“immigrant”

ハ“alien”ニ修正セラレタリ

「ケソン」ハ尙地方旅行中

米ヘ轉電セリ

~~~~~

比島移民法通過に付ては未だ公電に接せぬので如何なる經緯で當方の要望を無視して此の如き事態に立至つたかを審にし得ないのであるか孰れにしても遺憾のことであつて我

方に於ては今後も尙正當なる立場を了解善處せしむる爲の交渉を繼續する積である

今回通過の法案を見るに割當移民の外に非移民の入國か自由であるは勿論非割當移民に關する規定あり更に大統領の特別許可による移民の入國を認めて居るのである事實に顧み差當り比島政府に於ては是等規定の運用に依て從來比島經濟開發に絶大的の貢獻を爲し來つた我移民の入國に付き從來に比し著しき變化を見ざる様措置せられんことを要望せざるを得ない

1073

昭和15年6月10日

在マニラ吉田總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

移民割當數を超過する場合には好意的考慮を

払うとの公文交換に關しフィリピン大統領と

合意について

マニラ 6月10日後発

本省 6月10日夜着

第一八五號(館長符號扱、極祕)

貴電第一二四號二關シ(移民割當法案二關スル件)

機ヲ得テ「ケソン」ニ會見當方ノ從來ノ好意的考慮ノ次第ヲ縷々説明シ冒頭貴電會談錄「イニシアル」ノ件提議シタル處「ケ」ハ拙電第一四八號前段ノ理由ヲ繰返シ何トシテモ應スル氣色ナカリシカ本官ヨリ更ニ斯クテハ本官モ政府ニ對スル立場ヲ失ヒ貴方モ日本政府トノ間ニ氣不味キ關係ヲ生スルニ立至ルヲ以テ大局的見地ヨリ何トカ打開ノ策ヲ講セサルヘカラサル旨重ネテ說得セル處「ケ」ハ「バルガス」ヲ召致シ鼎座協議ノ結果  
(一)本官ヨリ公文ヲ以テ移民法實施ニ當リ本邦移民割當數ヲ越ユル場合比島政府ハ之ニ對シ單ニ好意的考慮ヲ拂フ準備アリヤニ付質問シ  
(二)右ニ對シ「ケ」ハ大統領特別許可制運用ニ關シ從來本官ニ語レル「ライン」ニ依リ回答ス  
(三)但シ右交換公文ハ豫メ充分協議ノ上決定ス  
トノ案ヲ得「ケ」モ右ニテ満足ナル旨承知セルカ本官ハ右案ナラハ恐ラク政府モ承諾スヘシト存スルモ一應稟請スヘシトテ辭シ來リ  
右ハ結局貴電第一一三號ニ逆戻リセルモノニシテ御異存ナキモノトハ存スルモ格段ノ御意嚮アラハ御回示アリタシ